



発行 社団法人 日本品質管理学会
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 (財)日本科学技術連盟東高円寺ビル内
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507
 ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

- 1-トピックス 「次世代TQMの構築」プロジェクトについて
- 2-私の提言 TQMをシンプルに！もっと魅力的に！
- 2-ルポルタージュ 第99回講演会
- 3-第37年度品質管理推進功労賞推薦のお願い/1月の入会者紹介
- 4-6th ANQ Call for Papers/行事案内

「次世代TQMの構築」プロジェクトについて

日本品質管理学会 会長 圓川 隆夫

「次世代TQMの構築」とは、(財)日本科学技術連盟が推進するプロジェクトであり、これに学会の中期計画の柱の一つである「Qの確保」の産学連携プロジェクトとジョイントさせながら進められているものである。昨年春その準備会が立ち上げられ、本年2月から「次世代TQMの構築」研究委員会(委員長：元当学会長の飯塚悦功東大教授)として走り出している。その基本コンセプトは、“日本企業のグローバル競争力向上に、より多く貢献できる「質をコア理念においた新しい科学的経営支援技術」の構築・体系化”である。

現在、研究委員会のもとに、(1)経営質革新、(2)イノベーション・価値創造、(3)バリューチェーン質革新、の3つのWGが設定されている。(1)は次世代質マネジメントシステムのあり方、運動論としての次世代TQMの体系化を究めるものであり、飯塚東大教授がリーダーを務める。(2)は創造的な商品設計とそれを可能にするイノベーションのマネジメントのあり方を提言するものであり、長田東工大教授のリーダーのもとに、3つのSGが間もなく始動することになっている。そして(3)は、冒頭に述べた当学会の中期計画の柱である「Qの確保」の中の産学連携に基づく新しい品質確保の活動と一体化させた活動となっており、学会を代表して圓川がリーダーとなっている。

計6回の準備会での企業トップの

TQMならびに経営上の課題についてのヒアリングの過程で、丁度、学会で進めていた2つの産学連携のモデルプロジェクトとテーマが合致し、それならば別々にやるのではなく、「次世代TQMの構築」と一体化させることが望ましいということで、理事会での承認のもとに進めているものである。これが通常の学会の研究会と異なるところは、まず特定企業(あるいは企業グループ)が主体となることである。その企業にとって喫緊の課題であり、かつ、将来日本企業に広く貢献できるとの認識のもとに特定の学のメンバーが参加することで、テーマの解決と公表できる形式での体系化を図ろうというものである。

昨年の総会でもその概要を紹介したA社、B社に加え、現在、C社プロジェクトが始動している。いずれも開発段階での自工程完結や一貫通貫のプロセス管理といったキーワードのもとに、SQCと品質工学を融合させた次世代「Qの確保」のテーマが推進されている。A社は自動車、B社はより短納期に晒されている事務機器やAV機器ということで、業種により異なるアプローチや手法活用の体系構築が目指されている。加えてC社は一品生産品であり、多目的最適化設計というOR的アプローチも組み込まれているのが特徴である。

これに加えて、今、動き出そうとしているのがD社「製品寿命に関する次

世代設計思想の確立」プロジェクトである。高品質、高信頼性への企業努力の裏返しとして、劣化の進んだ製品が長時間使用される、またその間当初想定されなかった使い方もされ事故につながり、メーカーの責任が問われるという、業界を横断した喫緊の課題でもある。メーカー側の設計思想のあり方(有限機能設計、適正な部品交換等々)に加えて、顧客側の意識改革(安全性に加えて、ライフサイクルコスト・環境負荷最小化)も必要であり、ひいてはわが国の固有の文化も配慮した政策やインスティテューションのあり方まで視野に入れた解決策を考えることも必要であろう。さらに、近年ますます重要性を増している「ソフトウェア・組み込みソフトの品質確保」に関してプロジェクト化を検討中である。

当学会の安全性・信頼性研究会でもこの課題が議論されている。これを拡大させ、また業界団体での取り組みと連携しつつ、学会としての考え方を取りまとめ世の中に発信していく使命があると考えている。

品質関連団体との連携も学会中期計画の柱の一つであり、学会として協力することでシナジー効果を引き出し、「次世代TQMの構築」が旧来のTQMをブレークスルーしたTQMルネッサンスとも言える活動になることを期待したい。

● 私の提言 ●

TQMをシンプルに！もっと魅力的に！

～経営・管理・担当のどの仕事でもTQMの仕事が見える化し
やり方がレベルアップするには～

サンデン株式会社 藤井 暢純



毎日のように新聞紙上で品質問題が取り上げられる。今日本企業が置かれている経営諸課題に対してシ

ンプルに問題解決できる具体的処方箋が見出せないジレンマに陥っている。更にTQMという経営ツールは刻々と変化する顧客ニーズに十分応えきれていないと思えるのは私だけだろうか。果たして経営者、管理者、担当者が各々大変魅力的と思うTQMとは何なのか？TQMとして当たり前の方針管理やPDCAサイクル、SQC等のことを如何に全員が理解し各々の仕事の中で

自然体として実行できるか、その“姿”を考えてみた。

それは“TQMの真髄をITシステムによってシンプルに見える化できないか”という“夢”である。現在各企業が積極的に進めているCAE、SQC、PLM等のIT化ではなく、“TQM総合的管理システムのための標準システムづくり”の意味である。既に先進企業では上記システムは構築済かも知れないが、ノウハウのオープン化も含めて私たちが取り組むべき課題として敢えて以下に提案させていただくことにした。

1. システム概要

TQMの推進に必要な基本アイテムを標準化した業務管理システムソフト。その中にはISO、TPM、SQC、QCサ

ークル等の付随した活動もサブシステムとして備えたもの。

2. 経営者からの魅力

方針管理、経営指標、部門計画策定、進捗管理等の見える化とともにTQM診断、品質レベル評価等が実行できるシステムツールであること。

3. 管理者からの魅力

方針管理進捗、活動計画策定・進捗管理、人材育成・評価、問題解決支援・TQM教育等の見える化が出来、自身と部下のTQMレベルアップが確認できるもの。

4. 担当者からの魅力

IT標準化で日常業務管理が見える化し、問題解決ツールが活用出来、自業務のTQMレベル自己診断機能、TQM基礎のeラーニング等の活用ができるもの。

今年品質保証ハンドブックを新しく改訂出版する機会もあり、TQMをシンプルに見える化し、少なくなったデミング賞挑戦を日本企業があちこちでしたくなる、効果の出る標準化ができればと思う。

第99回
講演会
ルポ「間近に迫る
内部統制報告制度」

金融商品取引法の制定（2006年6月）により、2008年4月1日以後に開始する事業年度により、上場企業に対して内部統制報告制度が適用されることとなった。民間企業の統制システムの法制化という驚愕すべき事態に対して、当学会は、会員の皆様にその内容を理解いただくことを目的として、標記講演会を10月2日、(財)日本科学技術連盟本部講堂にて開催した。

講演者は、企業会計審議会の専門委員として意見書「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準並びに財務報告に係る内部統制の評価及び監査に関する実施基準の設定について」の起草に携われた青山学院大学大学院教授、町田祥弘氏、産業界からは元日産自動車(株)、磯部孝征氏である。

町田氏には、我国の金融商品取引法の成立の過程から統制システム構築における留意点及び構築に至るま

での多岐に亘り、最新動向を踏まえつつ要点をお話いただいた。

特に、本制度構築の鍵は財務報告の範囲の決定に合理性を求めること及びそのことにつき監査人とよく協議を行い、双方で合意を取り付けることの重要性並びに昨今の情勢による監査人の保守的なスタンス（例えば結果として文書化範囲拡大傾向）の対抗として、企業側においては自社のリスク認識の明確化を図り、監査人にアピールすることそして絶えず実施基準（意見書）に立ち戻って判断の是非を考察することの必要性を訴えられた。本制度導入にあたりコスト肥大化の話を目にする折、コスト削減、労力低減の視点から大変有意義な示唆をいただいたものと思う。

磯部氏は、新会社法に定められた4つの目的のうち、①業務有効性及び効率性、②事業活動に関わる法令等の遵守に着目し、それらと品質保証の関わりをわかりやすく説明された。又設計・製造プロセスにおける可視化の必要性及び有効な監査のあり方など自論を展開され、聴講者の好評を得た。

芳野 康夫（アジア航測(株)）

第37年度 品質管理推進功労賞： 学会員の皆様 候補者の推薦をお願いいたします！

日本品質管理学会品質管理推進功労賞は、品質管理推進に尽力されている多くの方々に活力を与え、品質管理の発展がより加速され、ひいては産業界の発展に寄与できることを願って創設されました。本年度は第7回となり、次の要領で実施いたしますので、奮ってご推薦の程お願いします。但し、推薦にあたっては次の点にご配慮ください。

- 1) 本賞選考の推薦は全てEメールにてお願いします。
- 2) 推薦に際しては、予め被推薦者の了解を得て、被推薦者本人の確認を受けた書類を送付してください。

記

本賞の授賞資格（品質管理推進功労賞内規）：

以下のいずれかの条件を満たす会員とする。

- 1) 企業・各種団体（以下、組織という。）に所属し、所属組織の品質管理の実践と推進に多大な貢献をした、もしくは、していると認められる者。
- 2) 組織に所属し、本会に対する多大な貢献があった、もしくはある者。
- 3) 組織に所属し、品質管理に対する造詣が深い者。
- 4) 本会の役員2名以上の推薦があった者。

本年度選考方針：

- a. 本年度は、既に本来の所属企業を退職している人も対象として含めるものとし、表彰対象者数は、6名とする。
- b. 地域・社会への貢献を重視する。
- c. 本賞対象者の推薦に際しては、55～65歳位を目安とし、70歳以上ならびに50歳以下は避ける。
- d. 本来の所属企業で取締役になった人は避ける。但し、子会社等へ出向し役員になった方は候補者に含めて差し支えないものとする。
- e. 女性に対する配慮を積極的に行う。
- f. 37年度のJSQC理事は、今年度の推薦対象者から外す。

評価項目：

本賞の候補者に対して、主に次の観点から評価を行う。

【A】所属組織への貢献

- a 1 TQC/TQM/標準化/QCサークル活動等の推進
- a 2 品質管理に関する表彰・認証等の受審支援
- a 3 品質保証体制の確立
- a 4 その他特筆すべき活動

【B】地域・社会への貢献

- b 1 日本品質管理学会の発展
- b 2 デミング賞委員会/品質月間/関連学会等の活動を通じた品質管理の普及・発展
- b 3 標準化推進を通じた品質管理の普及・発展
- b 4 QCサークル活動の普及・発展
- b 5 日科技連/規格協会等の関係諸団体への協力を通じた品質管理の普及・発展
- b 6 品質管理に関する国際協力
- b 7 品質管理への深い造詣に基づく著作等の活動を通じた品質管理の普及・発展
- b 8 その他特筆すべき活動

推薦必要書類：

推薦書（様式219-1）、業績リスト（様式219-2）、上司等の推薦書（様式219-3、ここで上司等とは、元・上司、現・関連部門長を含むものとする。）

様式については、下記Web頁よりダウンロードしてください。

URL：http://www.jsqc.org/ja/kiroku_houkoku/jushou.html
業績リスト（様式219-2）の業績については、上記の評価項目に対応した記述にしてください。

推薦締切：2008年6月30日(月)

メール送付先：2008kourou@jsqc.org

選考：(社)日本品質管理学会 品質管理推進功労賞選考委員会が行う

発表：9月に開催される本学会理事会での承認後、本人ならびに推薦者に通知

表彰：2008年11月8日(土)

本学会 年次大会 授賞式

連絡先：(社)日本品質管理学会事務局

参考：http://www.jsqc.org/ja/kiroku_houkoku/jushou/kouroushou.html

2008年 1月の入会者紹介

2008年1月22日の資格審査において、下記の通り正会員20名、賛助会員2社の入会が承認されました。

.....
(正会員20名)○藤井 誠一(広島大学)○渡邊 克彦(トヨタ自動車)○山根 正節(東芝物流)○糸永 慎一(新日本製鐵)○浅野 薫夫

(フジインコーポレーテッド)○上田 育雄(旭化成ケミカルズ)○緒方 博通(日立情報システムズ)○田村 功(大垣村田製作所)○岩根 拓行(メトラー・トレド)○片桐 圭司(日鉱金属)○吉村 昌美(早稲田大学)○本田 俊正(東芝物流)○太田 雅春(大阪市立大学)○井上 清孝(ニッタ)○加藤 真司(フジキン)○馬場 賢(日産自動車)○小嶋 清孝(セイコーエプソン)○榎本 聖一(積水化学工業)○

Gregory Harris WATSON (Business Excellence Solutions)○田頭 弘子(The University of Manchester)

.....
(賛助会員2社3口)○構造化知識研究所○麒麟ホールディングス

.....
正会員：2822名
準会員：103名
賛助会員：178社206口
公共会員：23口

The 6th ANQ Quality Congress Call for Papers (JSQCメンバー向け)

“Quality People - Key to Excellence.”

Organized by Asian Network for Quality Hosted by The Standards & Quality Association of Thailand (SQAT)

☆参加のお勧め

2008年10月28日～31日バンコクにて、第6回アジア品質ネットワーク (ANQ: Asian Network for Quality) Quality Congressが開催されます。ホームページ (<http://www.anq2008.org>) よりご確認ください。JSQCは独自に下記プロセスで発表者を選考することが認められています。

テーマ: “Quality People - Key to Excellence.”

場所: Bangkok, Thailand

公式言語: 英語

アブストラクト提出: 2008年6月15日(日)

JSQC宛 office@jsqc.org

1. 論文題目 (英語及び日本語)
2. 著者と所属
3. 連絡先
4. 「若手研究者の旅費支援」希望の有無
5. 要旨 (A4・2ページ、英語及び日本語)

採択通知: 2008年7月中旬

フルペーパー提出: 2008年8月29日(金)

JSQC宛 office@jsqc.org

★JSQC若手研究者の旅費支援プログラム

JSQCを通して要旨を提出し、ANQでの発表に対し下記要領で旅費の支援をいたします。

対象: 大学院生、第1著者で本人が発表する場合
 支援対象者数: 10名程度
 支援額: 3万円

行事案内

●第60回クオリティバブ (本部)

テーマ: 旅行商品の企画

ゲスト: 折戸晴雄氏 (玉川大学)

日時: 2008年3月24日(月)18:00～20:30

会場: 日本科学技術連盟 東高円寺ビル5階研修室

定員: 30名

参加費: 会員3,000円 非会員4,000円
 準会員・一般学生2,000円
 (含軽食・当日払い)

詳細: ホームページをご覧ください。
 申込方法: 本部事務局宛E-mailまたはFAXにてお申し込みください。

●第119回シンポジウム (本部)

テーマ: 環境設計とグリーン調達

日時: 2008年3月29日(土)9:45～17:00

会場: 日本科学技術連盟 東高円寺ビル

参加費: 会員5,000円 (締切後5,500円)
 非会員7,000円 (締切後7,500円)
 準会員2,500円 一般学生3,500円

申込締切: 2008年3月21日(金)

プログラム:

基調講演: 増井慶次郎氏
 (独)産業技術総合研究所)

報告①安井基晃氏

(社)産業環境管理協会)

報告②岡本眞一氏 (東京情報大学)

講演①谷口幸広氏 (株)日立製作所)

講演②中村和利氏 (キヤノン(株))

講演③浅田 聡氏 (トヨタ自動車(株))

パネルディスカッション

申込方法: ホームページからお申し込み
 できます。

●第120回シンポジウム (関西)

テーマ: 製品経年劣化事故に対する消費者保護のあり方 (仮題)

日時: 2008年4月7日(月)13:00～17:00

会場: 大阪国際会議場 (グランキューブ大阪) 11階 1101・1102
 会議室

参加費: 会員3,000円 非会員 4,000円
 準会員1,500円 一般学生2,000円

講演者:

①長田 敏氏 (製品評価技術基盤機構)

②三浦佳子氏 (財)日本消費者協会)

③宮村鐵夫氏 (中央大学)

④巻島文夫氏 (日立アプライアンス(株))

申込方法: 関西支部事務局までE-mailまたはFAXにてお申し込みください。

●第103回講演会 (関西)

テーマ: 品質力・組織力向上に向けて
 (リーダーの役割)

日時: 2008年5月9日(金)午後

会場: 大阪・中央電気倶楽部 5階ホール
 プログラム:

講演①: 「クオリティ経営リーダーの役割」

岡部 弘氏 (株)デンソー)

講演②: 「現場を強くする実践的MOT

スーパースタッフシグマ

OG (大阪ガス) WAY」

永田秀昭氏 (大阪ガス(株))

参加費: 会員3,000円 非会員 4,000円

準会員1,500円 一般学生2,000円

※当日払い

申込方法: 関西支部事務局までE-mailまたはFAXにてお申し込みください。

●第332回事業所見学会 (本部)

テーマ: ブリヂストンにおける品質活動の取組み一標準化型改善活動 (仮題)

日時: 2008年5月30日(金)午後

会場: (株)ブリヂストン 東京工場

定員: 30名 (会員優先)

参加費: 会員2,500円 非会員 3,500円

準会員1,500円 一般学生2,000円

※当日払い

申込締切: 5月29日(木)到着分

申込方法: 本部事務局宛E-mailまたはFAXにてお申し込みください。

●第86回研究発表会 (本部)

日時: 2008年5月31日(土)・6月1日(日)

会場: 日本科学技術連盟 東高円寺ビル

プログラム: (予定)

・5月31日(土)

10:00～11:00 チュートリアルセッションA
 「NISSAN GT-Rのシャーシ・動
 性能開発」

中村篤史氏 (日産自動車(株))

11:10～12:20 チュートリアルセッションB
 「食品企業の不祥事を総括し、科
 学する」

米虫節夫氏 (近畿大学)

13:20～18:00 研究発表会

18:00～19:30 懇親会

・6月1日(日)

10:00～16:45 研究発表会

参加費:

チュートリアルセッション・研究発表会

会員6,000円 (締切後6,500円)

非会員9,000円 (締切後9,500円)

準会員3,000円・一般学生4,000円

研究発表会のみ (1日参加/2日参加とも)

会員4,000円 (締切後4,500円)

非会員6,000円 (締切後6,500円)

準会員2,000円・一般学生3,000円

懇親会

会員・非会員 4,000円

準会員・一般学生2,000円

申込締切: 2008年5月21日(水)

申込方法: 同封の参加申込書にご記入の上、本部事務局までお申し込み
 ください。

●第88回研究発表会 (関西)

日時: 2008年9月19日(金)

会場: 大阪・中央電気倶楽部

詳細: ホームページをご覧ください。
 随時更新いたします。

<http://www.sigmath.es.osaka-u.ac.jp/~mkuroki/88meeting.html>

行事申込先

JSQCホームページ: www.jsqc.org/

本部: TEL 03-5378-1506

FAX 03-5378-1507

E-mail: apply@jsqc.org

関西支部: TEL 06-6341-4627

FAX 06-6341-4615

E-mail: kansai@jsqc.org